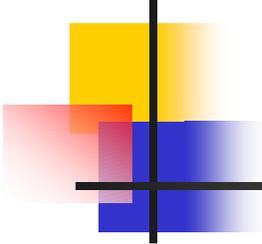


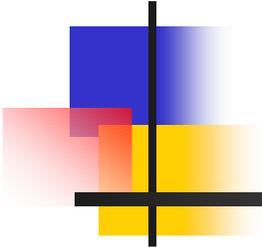
広島銀行のリスク管理高度化への取組み

平成24年2月5日(火)
広島銀行 リスク統括部
平田 泰弘
青木 龍一



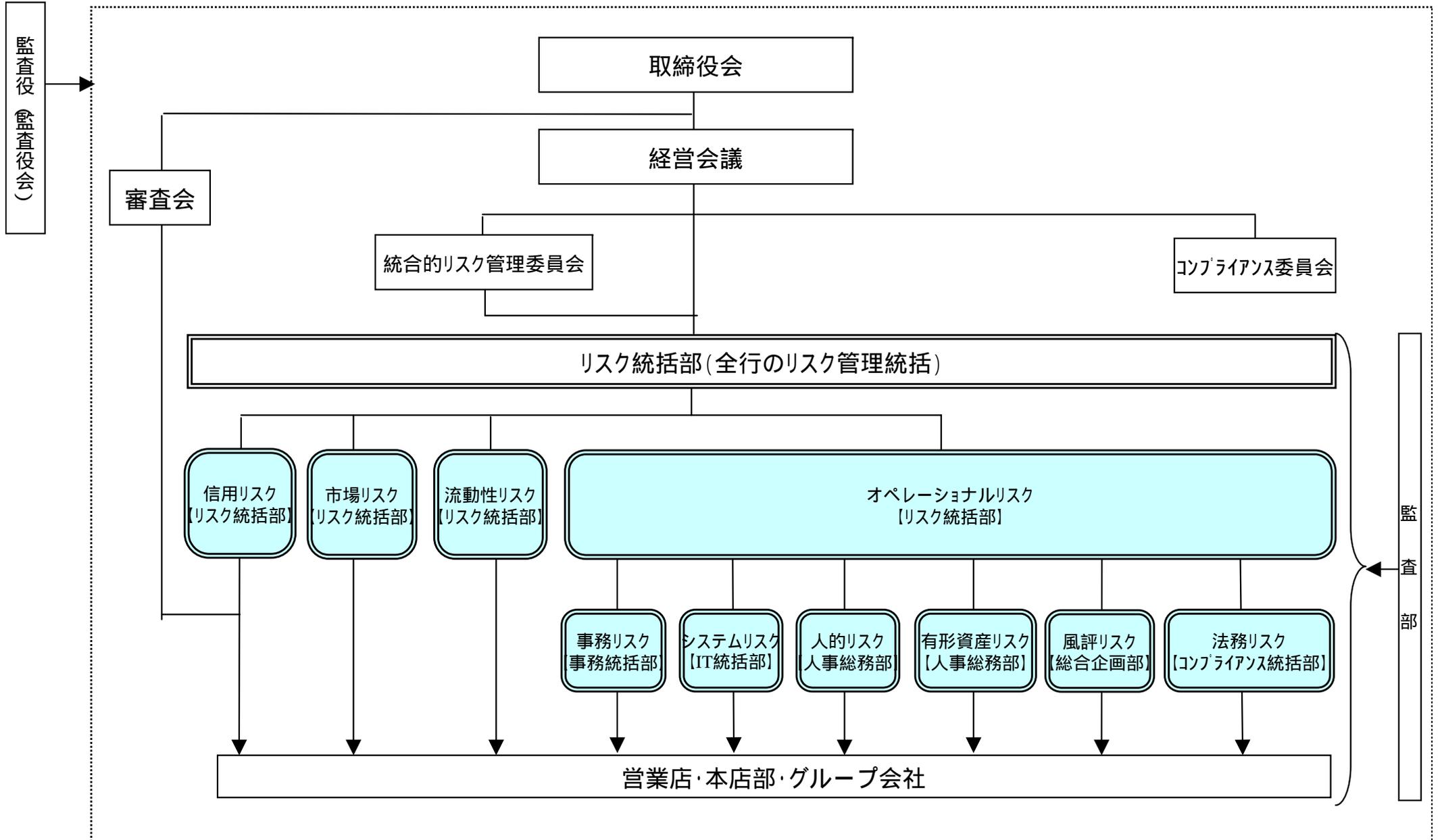
目次

1. リスク管理の組織・体制…………… P2 ~ 5
2. リスク管理の枠組み…………… P6 ~ 13
3. ストステスの実践…………… P14 ~ 21
4. 高度化に向けた課題…………… P22 ~ 24

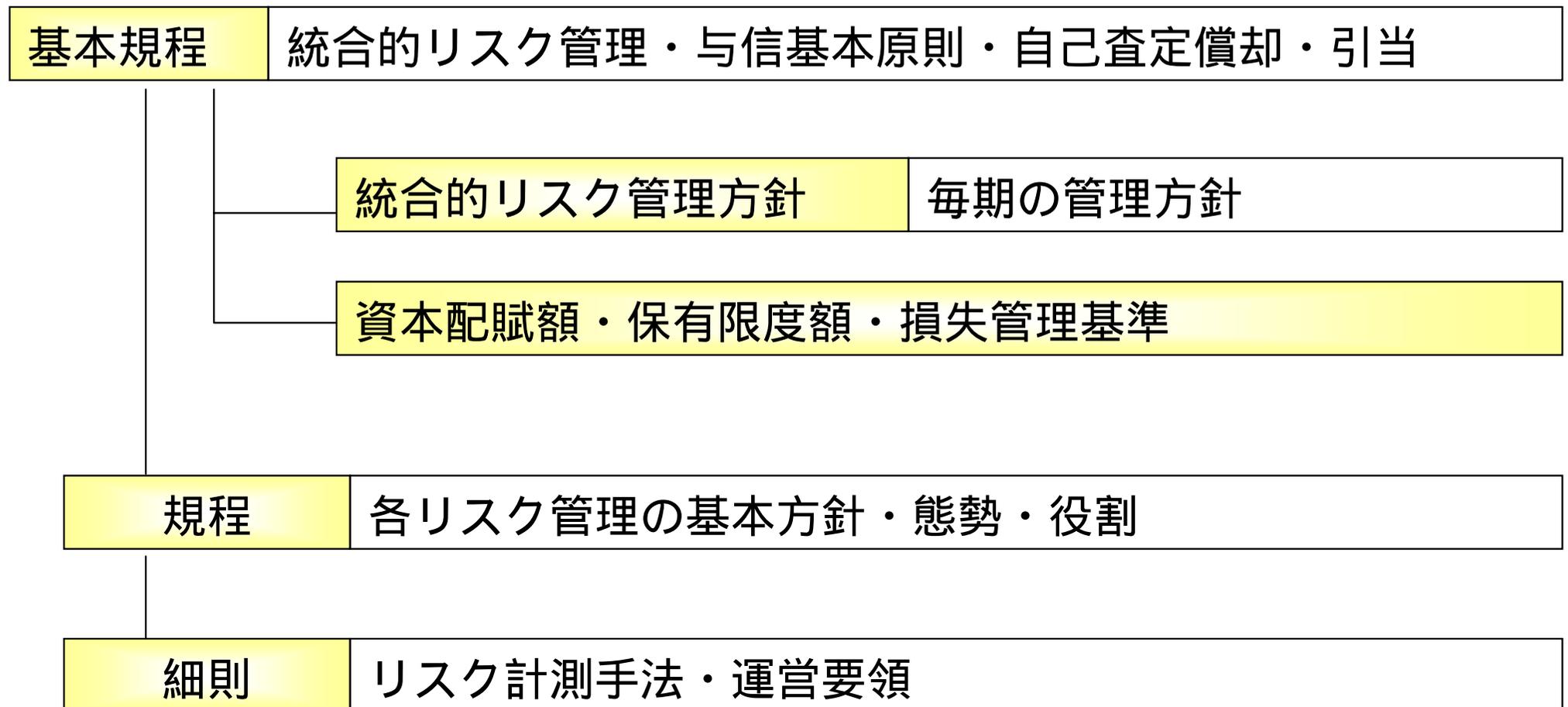


1. リスク管理の組織・体制

(1) 統合的リスク管理体制



(2) リスク管理に関する規定体系

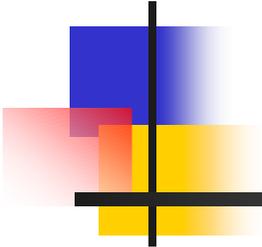


(3) リスク管理の考え方

【リスク管理に関する基本方針】

信用リスク・市場リスク・流動性リスク・オペレーショナルリスクを統合的に管理・把握し、経営体力と対比して適正な水準にリスクをコントロールしたうえで収益力の強化を図る

業務上抱えるリスクを包括的に認識し、適切なリスク管理態勢の構築を図る



2. リスク管理の枠組み

(1) 資本配賦運営

【資本配賦の考え方】

資本配賦額 = 連結Tier1から一定量のバッファを控除した額

連結Tier1

-

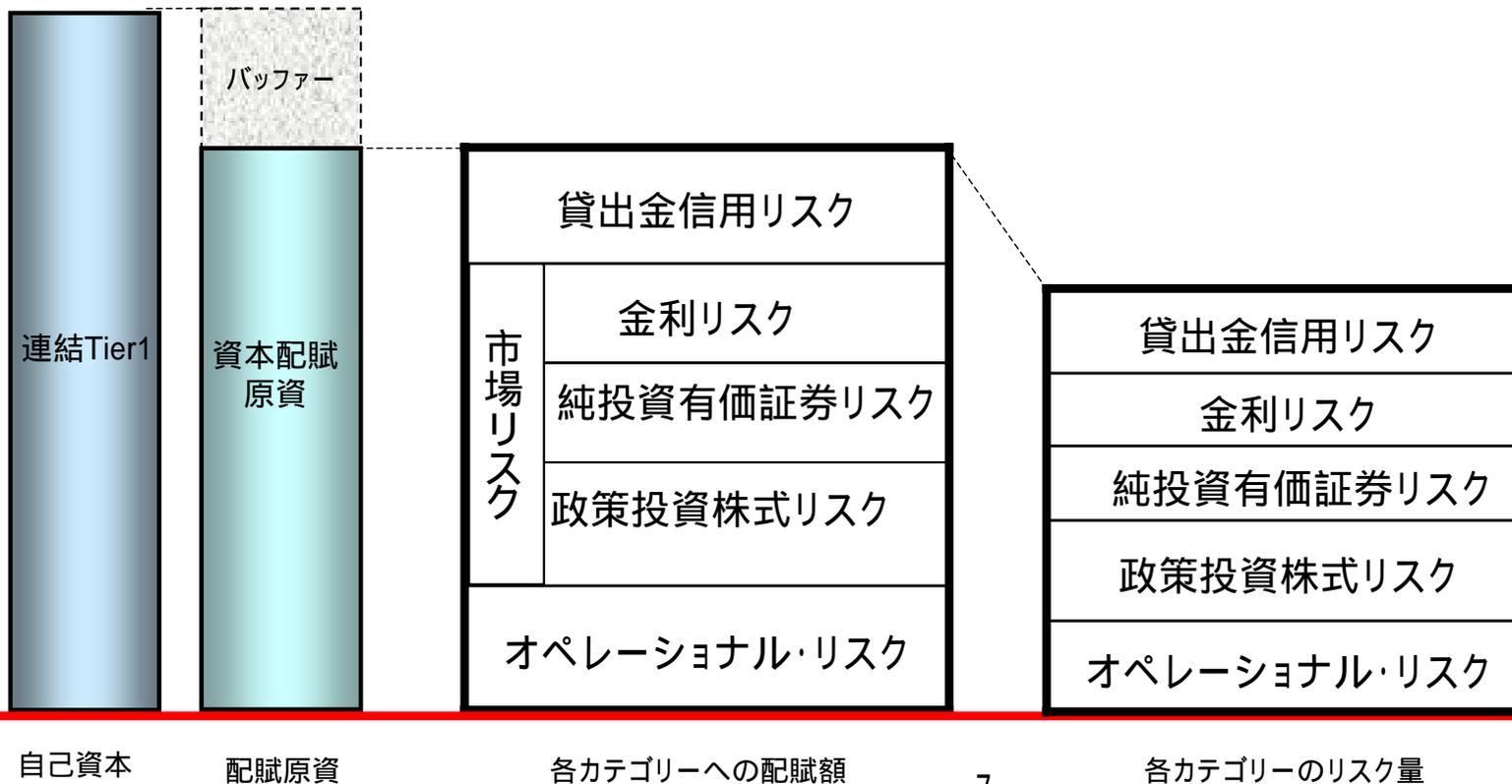
バッファ

資本配賦額原資

>

統合リスク量

各カテゴリー毎の資本配賦額 直近のリスク量実績等をもとに経営計画達成等に必要な額を配賦



(2) 市場リスク管理

【限度額等設定による管理】

資本配賦額に加えて、損失管理基準、アウトライヤー比率に関するアラームポイントを設定し、過度のリスクテイクを抑制

市場リスク量の適切な把握が困難な運用資産については、別途、保有限度額を設定

【アラームポイント超過時の対応】

当該リスクカテゴリーの所管部署の担当取締役との協議により、今後の対応を検討・実施

協議内容を統合的リスク管理委員会で審議した後、取締役会へ付議

(3) 流動性リスク管理

【流動性リスク管理に関する基本方針】

資金繰りの状況・見通し、資金繰りに影響をおよぼす諸条件の変化を把握・管理することにより経営基盤の安定性を向上
平常時においても流動性危機時を想定しての対応策を確立
資金繰り逼迫度区分（平常時・懸念時・危機時）に応じたリスク管理を実施

【資金ポジション限度額】

安定的な調達実施のため、円貨・外貨別に限度額を設定

【資金化可能資産準備額】

危機時の預金流出リスクに備え、要準備額として資金化可能期間毎に設定

- ・担保として利用できる資産
- ・売却等により資金化が可能な資産

(3) 流動性リスク管理

【資金繰り逼迫度区分および判断基準】

定量的要件および定性的要件に基づき、資金繰り逼迫度区分を「平常時」「懸念時」・「危機時」に区分し対応

【定量的要件】

顧客預金流出度合い
市場性資金調達状況
株価・格付

【懸念時】

調達市場の状況を把握
資金調達の確実性・有効性を逐次確認
追加的な流動性確保策の検討

【定性的要件】

風評
市場の機能低下

【危機時】

必要によっては危機対策本部を設置

対応方法

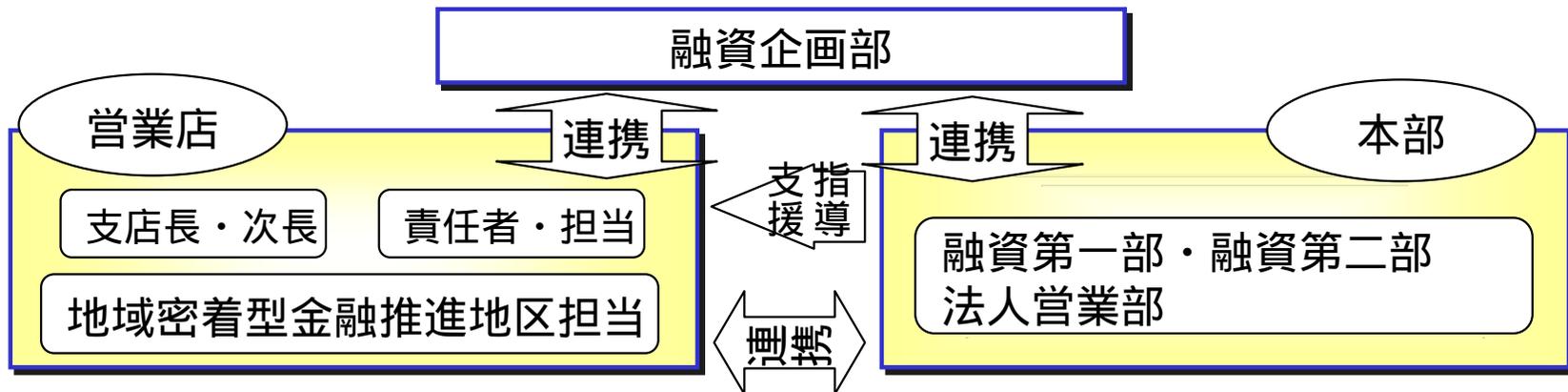
(4)信用リスク管理

金融円滑化出口戦略

中小企業金融円滑化法の最終延長の趣旨を踏まえ、地域密着型推進地区担当を中心に、本支店一体となって、経営サポートが必要な取引先の「正常化」に向けて、真の意味で経営改善に繋がる「出口戦略」を提案・実施中

【地域密着型金融推進体制】

営業店が主体的に地域密着型金融を推進する体制の構築に向け、平成24年末までの時限措置として、「地域密着型金融推進地区担当」を営業店に配置



企業再生・経営支援 + コンサルティング 機能の発揮・最適な出口戦略の提供

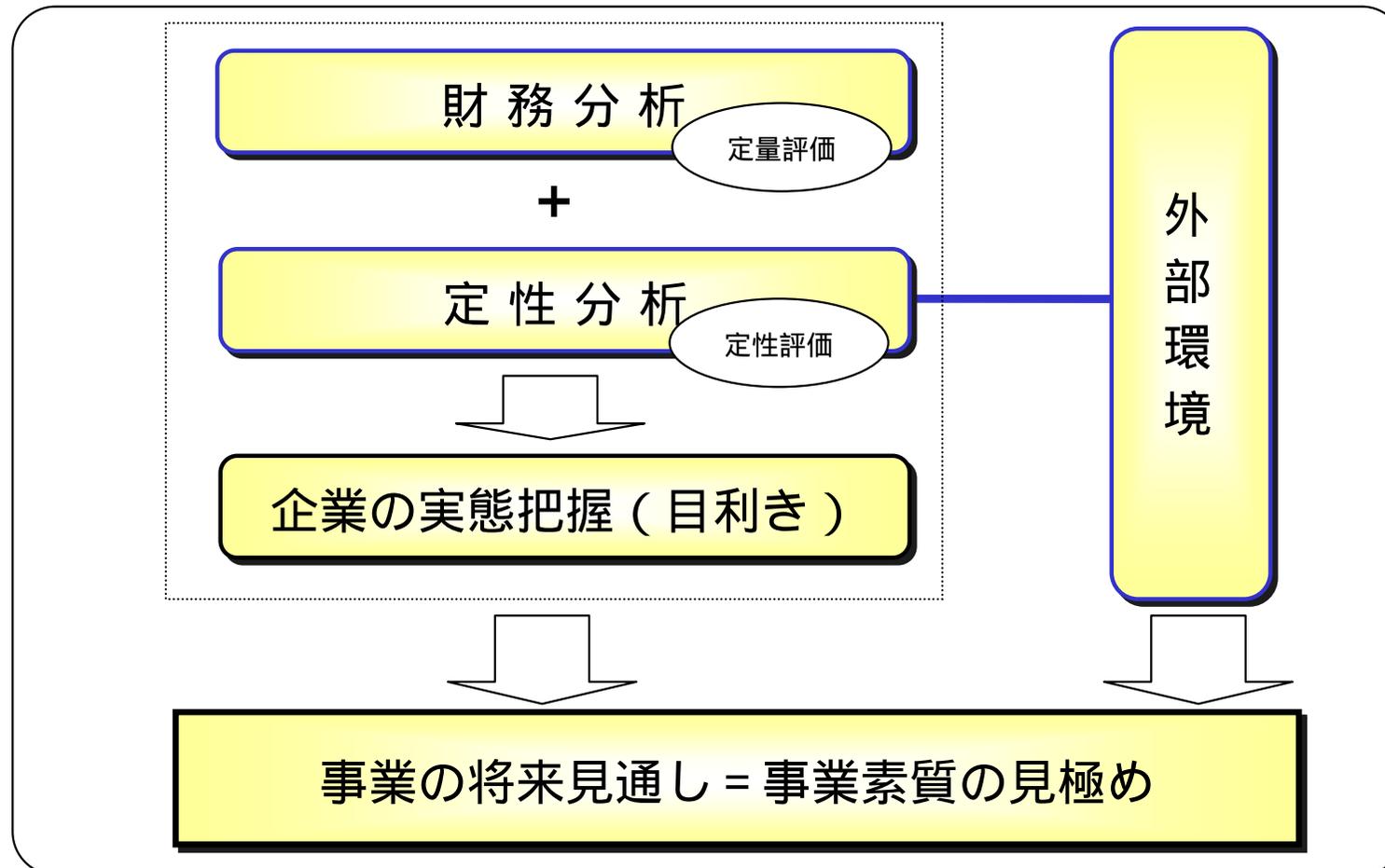
外部専門家の活用

(4)信用リスク管理

金融円滑化出口戦略

【定性分析を活用した事業素質の見極め】

財務分析に定性情報を加えて取引先の事業素質を見極め、事業の持続可能性を判断

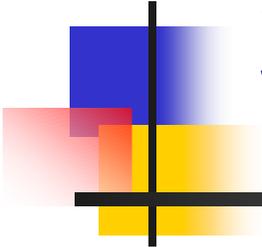


(4)信用リスク管理

クレジットリミット

クレジットリミット：個社・グループの信用集中リスクを無担保与信額で管理
格付別に無担保与信限度額を設定
必要に応じて総与信額での管理も併せて実施

格付	無担保与信限度額 (クレジットリミット)
格	億円



3. ストレステストの実践

(1) ストレステストの概要

当行では目的に応じて下記4パターンのストレステストを実施し、行内でのリスク認識の共有化を図っている

目的	自己資本の充実度評価	資本配賦額の妥当性検証	対応方針決定等にあたっての判断材料の提供	収益計画の検証
シナリオ	各リスクカテゴリーに対してストレス事象が発生	資本配賦額設定の前提条件（計数計画やボラティリティ等）が変化	経済・市場環境や外部で発生したイベント等を捉えた個別のシナリオ	期間損益が赤字転落
ストレス対象	P/L、B/S	リスク量	P/L、B/S	P/L
実施方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ストレス事象が発生した場合の与信費用の増加や評価損益の悪化を把握 ・Tier 1 との対比により、自己資本の充実度を評価 	<ul style="list-style-type: none"> ・特定業種の劣化やボラティリティの上昇等、ストレス事象発生時のリスク量を算出し期初の資本配賦額と比較 	<ul style="list-style-type: none"> ・個別のリスクファクタ-の当行のB/S・P/Lへの影響を試算 	<ul style="list-style-type: none"> ・金利・株価・デフォルト率等のリスクファクターを決定し、期間損益が赤字になる水準を試算
活用方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ストレスの影響を分析し、リスクコントロール、資本政策の対応、経営計画への反映に活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・景気悪化や金融市場混乱によるリスク量の増加を見積もり、どのような事象が発生した場合に資本配賦額を超過するか認識 	<ul style="list-style-type: none"> ・与信判断や取組み方針への反映、リスクが顕在化した場合の対応方針の検討に活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・収益計画が損失となるシナリオを想定することにより、どのような事象が発生した場合に損失に陥るかを認識
報告会議	取締役会	取締役会	統合的リスク管理委員会等	経営会議
頻度	四半期毎	半期毎（資本配賦額設定時）	随時	半期毎（経営計画策定時）

自己資本の充実度評価

【実施概要】

目的	自己資本の充実度評価
シナリオ	各リスクカテゴリーに対してストレス事象が発生
ストレス対象	P/L、B/S
実施方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ ストレス事象が発生した場合の与信費用の増加や評価損益の悪化を把握 ・ Tier 1 との対比により、自己資本の充実度を評価
活用方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ ストレスの影響を分析し、リスクコントロール、資本政策の対応、経営計画への反映に活用
報告会議	取締役会
頻度	四半期毎

ストレスシナリオ		資産価値 下落額	合計 (自己資本比率)	Tier 1 の範囲内
過去最悪のシナリオ	デフォルト率、担保価値下落 市場変動	〇〇〇	〇〇〇〇 (〇%)	
相関が崩れるシナリオ		〇〇〇	〇〇〇〇 (〇%)	
仮想シナリオ フォワードルッキングなシナリオ	取引先劣化・ 要注意先の残高増加 貸出金信用リスク 長期金利上昇・ 株価下落 市場リスク	〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇	〇〇〇〇 (〇%)	

リバース・ストレス・テスト			
自己資本比率が8%を割る水準を与信費用と株価・金利で提示			
		株価と長期金利	
		〇,〇〇〇円 〇%	〇,〇〇〇円 〇%
	〇〇〇億円	〇〇〇億円	〇〇〇〇億円
与信費用	〇〇〇億円	〇%	〇%
	〇〇〇億円	〇%	8.0%

資本配賦額の妥当性検証

【実施概要】

目的	資本配賦額の妥当性検証
シナリオ	資本配賦額設定の前提条件 (計数計画やボラティリティ等) が変化
ストレス対象	リスク量
実施方法	・特定業種の劣化やボラティリティの上昇等、ストレス事象発生時のリスク量を算出し、期初の資本配賦額と比較
活用方法	・景気悪化や金融市場混乱によるリスク量の増加を見積もり、どのような事象が発生した場合に資本配賦額を超過するか認識
報告会議	取締役会
頻度	半期毎(資本配賦額設定時)



方針決定時における判断材料の提供

【実施概要】

目的	対応方針決定等にあたっての判断材料の提供
シナリオ	経済・市場環境や外部で発生したイベント等を捉えた個別のシナリオ
ストレス対象	P/L、B/S
実施方法	・個別のリスクファクターのB/S・P/Lへの影響を試算
活用方法	・与信判断や取組み方針への反映、リスクが顕在化した場合の対応方針の検討に活用
報告会議	統合的リスク管理委員会等
頻度	随時

《事例》金利変動による収益シュミレーション》

サブシナリオによる期間損益影響

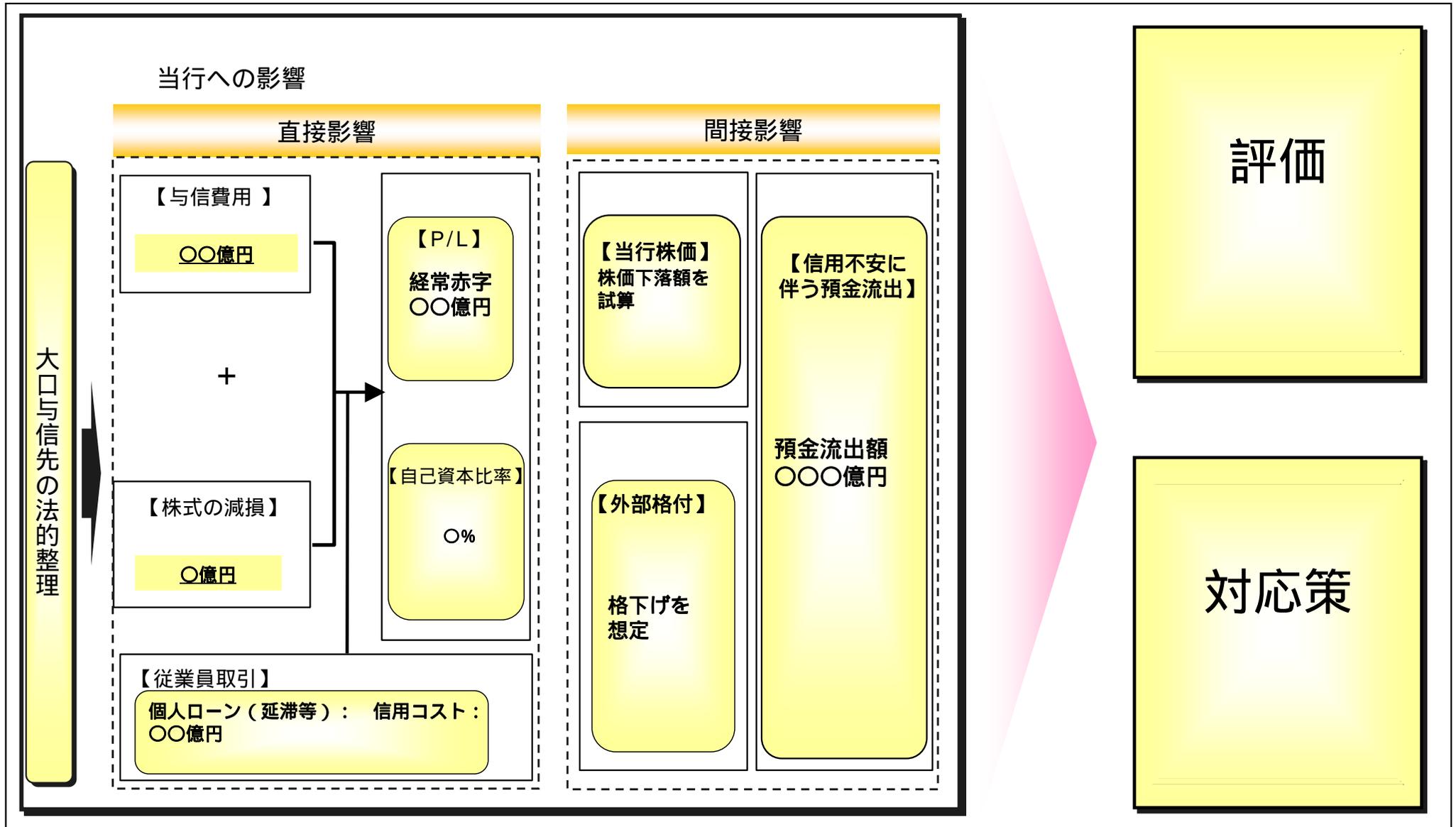
- ・サブ金利シナリオによる資産・負債別の収益影響を把握

金利シナリオ変動に加え、シナリオ変動による資産構造変化による期間損益影響

- ・金利上昇による、流動性預金の定期性預金へのシフトや、変動金利住宅ローンの固定金利ローンへのシフトを想定し、期間損益影響を把握

方針決定時における判断材料の提供(続き)

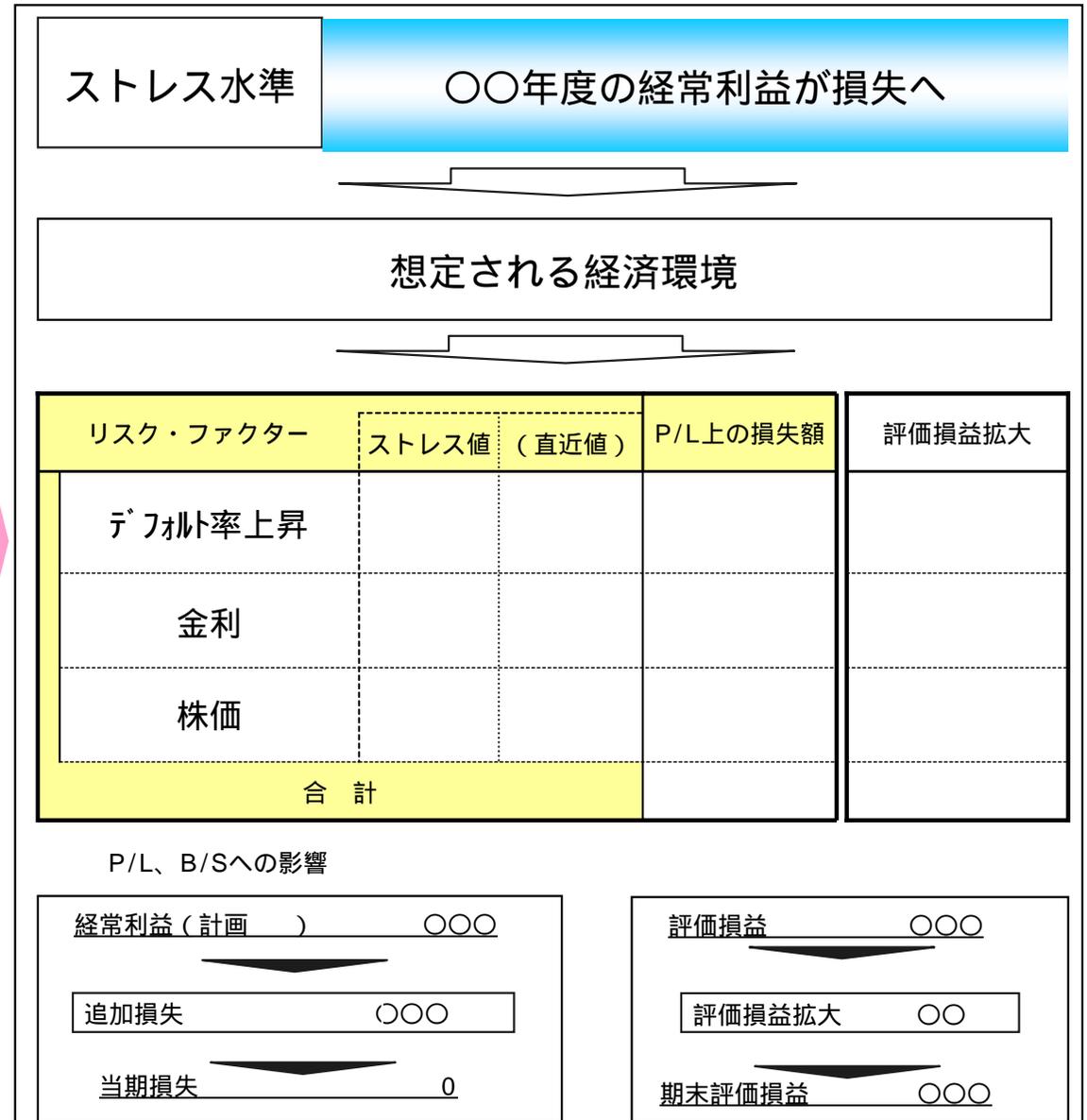
《事例》 大口与信先の信用リスクが顕在化した場合のストレステスト



収益計画の検証

【実施概要】

目的	収益計画の検証
シナリオ	期間損益が赤字転落
ストレス対象	P/L
実施方法	・金利・株価・デフォルト率等のリスクファクターを決定し、期間損益が赤字になる水準を試算
活用方法	・収益計画が損失となるシナリオを想定することにより、どのような事象が発生した場合に損失に陥るかを認識
報告会議	経営会議
頻度	半期毎（経営計画策定時）



(2) その他のストレステスト(流動性リスク)

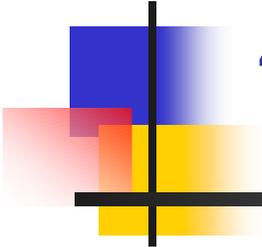
預金の急激な流出等を想定した流動性リスクに関するストレステストを実施
 ストレステスト結果に基づき、資金化可能資産準備額を期間毎に設定

【ストレシナリオ】

危機時の預金流出額等
a) 預金流出 ・ペイオフ解禁時の個人預金の流出 ・通常の預金とリスク特性の異なる預金流出
b) 全銀資金決済ネットワークでの 為替担保の増加
c) コミットメントラインの空き枠 実行

《資金化可能資産準備額》

	危機時の預金流出額等				累 計 資金化可能 資産準備額
	a) 預金流出 リスク額 〇〇〇億円	b) 為替担保 積増額 〇〇〇億円	c) コミットメント ライン 空き枠 〇〇〇億円	合 計	
1 週間 以内					
1 ヶ月 以内					
6 ヶ月 以内					



4.高度化に向けた課題

(1) ストレステストの高度化(マクロストレステスト)

現状のストレステストにおける課題

各リスクカテゴリーにおけるストレスシナリオは各々独立して設定（シナリオ全体にストーリー性が乏しい）
ストレスシナリオとリスクパラメータの相関性に関する設定根拠があいまい 等

高度化が必要

目指すべき方向性（マクロストレステスト）

○ストレスシナリオの策定

- ・ 自行のポートフォリオ特性に鑑み、近い将来発生する蓋然性が高く、シナリオ全体に亘って納得感の高いフォワード・ルッキングなシナリオを、組織横断的に議論・策定

ストレスシナリオの影響を主要なマクロ指標（GDP、長期金利、為替、株価等）に置き換え

マクロ指標の変化がリスクパラメータ（格付遷移、デフォルト率等）に与える影響を把握

経営へのインパクトの把握、必要に応じてアクションプランの策定

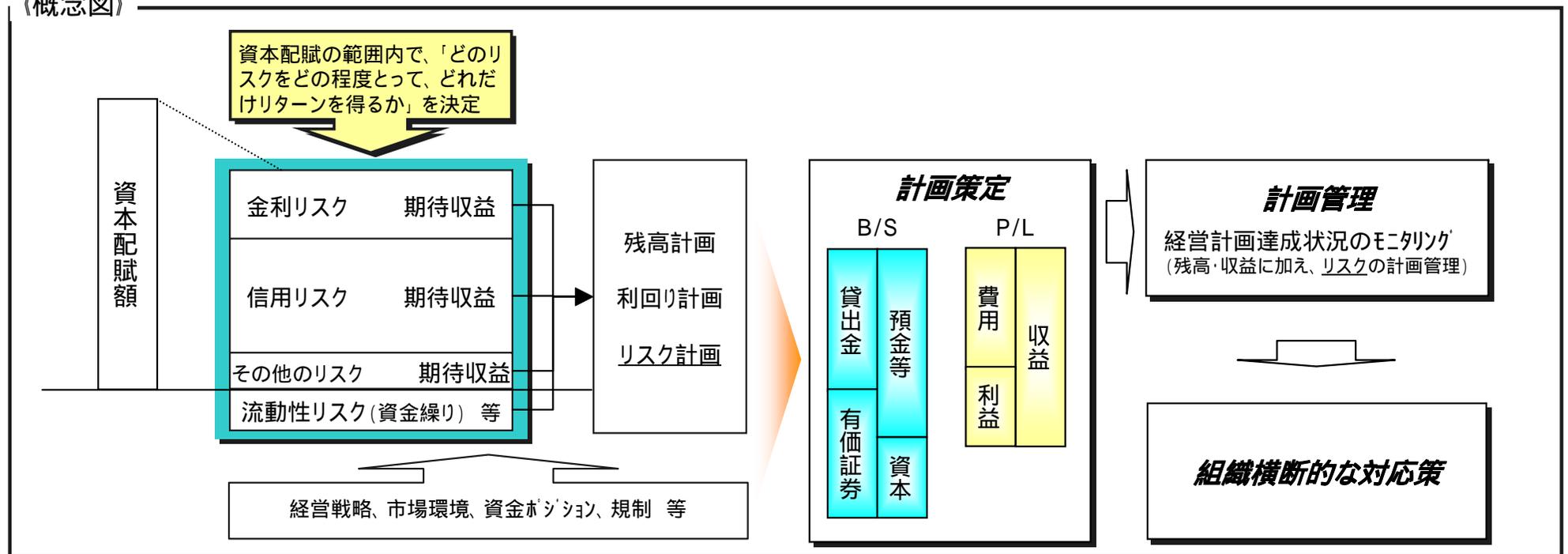
ストレスシナリオの高度化（発生蓋然性が高く納得感の高いフォワード・ルッキングなシナリオ）を図るなかで、システムインフラの整備等について検討していく予定

(2)リスクアペタイト・フレームワークの整備

目指す経営管理体制

経営計画の策定において、「どのリスクをどの程度とってどれだけリターンを得るか」という概念を導入し、経営レベルでリスク選好(リスクアペタイト)を明確化
 経営管理のPDCAサイクルのなかで、リスク・リターン双方に関するコミュニケーション・ツールとして活用

〈概念図〉



金利リスクにおけるリスク・リターンの計画管理より、段階的に実施していく方針